



N.Inaba

THE KEIHAN HAI

第70回 京阪杯 (GIII)

1着 41,000,000円 2着 16,000,000円 3着 10,000,000円 4着 6,200,000円 5着 4,100,000円
付加賞 658,000円 188,000円 94,000円



レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

3歳以上、除未出走馬および未勝利馬

負担重量 3歳56kg、4歳以上57kg、牝馬2kg減、2024.11.23以降G I競走(牝馬限定競走を除く)1着馬3kg増、
牝馬限定G I競走またはG II競走(牝馬限定競走を除く)1着馬2kg増、牝馬限定G II競走またはG III競走(牝
馬限定競走を除く)1着馬1kg増、2024.11.22以前のG I競走(牝馬限定競走を除く)1着馬2kg増、牝馬限定
G I競走またはG II競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1kg増(ただし2歳時の成績を除く)

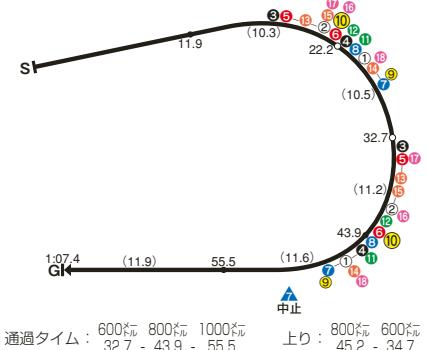
2025.11.30 京都 晴 良 芝1200m (園路) 特指

順位	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム	コーナー	上り	馬体重	単勝	オッズ	調教師	レーティング
						(着差)	通過順位 (600m)	(増減)					
1	⑩	エーティーマクフィ	牡 6	57	富田 晴	1:07.4	10-9	33.4	480(+14)	11.7⑦	武英智(栗東)	112	
2	①	ルガル	牡 5	59	西村淳也	1	5-3	34.0	532(+10)	4.3①	杉山晴紀(栗東)	113	
3	④	ヨシノイースター	牡 7	57	内田博幸	%	8-6	33.9	496(+10)	8.2④	中尾秀正(栗東)	107	
4	⑥	レイピア	牡 3	56	鈴木克俊	クビ	10-9	33.6	506(+4)	11.4⑥	中竹和也(栗東)	106	
5	⑪	エイシンフェンサー	牡 5	56	川又賢治	1¼	6-6	34.1	480(+5)	7.5③	吉村圭司(栗東)	105	
6	②	アブキールペイ	牡 3	55	吉村誠之助	クビ	13-12	33.7	438(+16)	25.0①	坂口智康(栗東)	104	
7	⑯	ヤマニンアルリフラ	牡 4	58	岡野大成	%	10-12	33.8	492(-6)	25.4②	齊藤崇史(栗東)	103	
8	⑤	ジャステインスカイ	牡 6	57	荻野 楓	クビ	17-16	33.0	536(-2)	21.2⑨	友道康夫(栗東)	102	
9	⑬	モズマイマイ	牝 5	55	国分恭介	クビ	16-15	33.5	476(-4)	130.8⑩	前川恭子(栗東)	101	
10	⑧	メイショウソラフネ	牡 6	57	高杉吏麒	クビ	6-8	34.4	450(-4)	10.4⑤	石橋 守(栗東)	100	
11	⑭	クラスマディア	牡 3	56	小崎綾也	アツマ	3-3	34.8	514(+4)	63.0⑩	河嶋宏樹(栗東)	99	
12	⑮	ペアボリックス	牡 4	57	松若風馬	%	3-3	34.8	472(±0)	15.8⑧	梅田智之(栗東)	98	
13	⑫	ナムラクララ	牝 3	54	武 豊	ハナ	8-11	34.3	486(+8)	5.1②	長谷川浩大(栗東)	97	
14	⑯	オタルエバー	牡 6	57	荻野琢真	3	13-14	34.4	502(+2)	216.5⑩	中竹和也(栗東)	96	
15	③	ショウナンサンダック	牝 3	55	藤田裕二	1	18-18	33.7	452(+2)	61.9⑩	松下武士(栗東)	95	
16	⑨	カルチャーデイ	牝 4	55	横山典弘	クビ	2-1	36.2	442(+12)	23.3⑩	四位洋文(栗東)	94	
17	⑰	ティエムスパーダ	牝 6	56	斎藤 新	4	13-16	34.9	498(+1)	57.3⑩	小椋研介(栗東)	93	
中止	⑦	ジャスパークローネ	牡 6	57	丸山元気	1-2	500(-)	141.4⑦	森 秀行(栗東)	92			

単勝⑩1,170円(7kg)、複勝⑩300円(5kg)、①220円(2kg)、④260円(4kg)、枠連①-⑥2,480円(12kg)

馬連①-⑩4,470円(14kg)、ワイド①-⑩1,400円(14kg)、④⑩1,590円(17kg)、①-④760円(2kg)

馬単①-⑩10,490円(37kg)、3連複①-④-⑩10,360円(22kg)、3連単⑩-①-④72,100円(200kg)



アラカルト

- 富田曉騎手は京阪杯初勝利。JRA重賞は25年初勝利、通算2勝目
- 武英智調教師は京阪杯初勝利。JRA重賞は25年3勝目、通算15勝目
- マクフィ産駒はJRA重賞通算6勝目
- 6歳馬の勝利は20年ファーノロマーノに続く通算6回目
- ジャスパークローネは競走中に疾病(右前肢跛行)を発症したため最後の直線コースで競走中止
- 非抽選馬 5頭(グランテスト、ジョーメッドヴィン、バースクライ、ブントドール、ムイ)

エーティーマクフィ A T Makfi

牡 鹿毛 2019.5.6生

北海道新ひだか町 岡田牧場生産
馬主・岡田隆寛氏 栗東・武英智厩舎
馬名意味・冠名+父名

プロリースカツップGB系 F3-I		
マクフィGB Makfi 鹿毛 2007	Dubawi 鹿毛 2002	Dubai Millennium
		Zomaradah
	Dhelaal 鹿毛 2002	Green Desert
テンシンランマン 黒鹿毛 2010		Irish Valley
	ハーツクライ 鹿毛 2001	サンデーサイレンスUSA
		アイリッシュダンス
	ハナランマン 栗毛 1995	サクラユタカオー
		ファイトボロン

5代までのインブリードなし

INTERVIEW

岡田隆寛代表(岡田牧場)

青函Sが大きな転機になりました

5月生まれで小さかったですが馬体のバランスが良く、セレクションセールに上場できました。芝もダートもこなせますが、3走前に阪神のダート戦を除外され急遽、青函S(1着)に出走したことが大きな転機になりました。栗東から函館への直前輸送で馬は大変だったと思いますがよく結果を残してくれました。これからも無事で息の長い活躍を期待しています。



境地が“本物”であることを証明した。新S。続くキーンランDCは馬群に包まれ、脚を余した格好で7着に敗れたものの、この日は完全燃焼の走りで前走の鬱憤を晴らし、2走前に開拓した新

2歳時の7月、芝1200mの未勝利戦で初勝利を挙げた本馬は翌年暮れ、オーフン入り後もコンスタントに好走を重ねた。その半面、なかなか手が届かない日星を掴んだのが、2年半ぶりに芝のレースに挑んだ6月の青函S。続くキーンランDCは馬群に包まれ、脚を余した格好で7着に敗れたものの、この日は完全燃焼の走りで前走の鬱憤を晴らし、2走前に開拓した新

父マクフィ GB

英、仏6戦4勝(英2000ギニーG1、ジャックルマロワ賞・仏G1、ジェベル賞・仏G3)、11年から英、新、仏、日で供用

〔代表産駒〕ボヌヴァル Bonneval(ATCオーケス・豪G1、ニュージーランドオーケスG1、アンダーウッドS・豪G1)、メイクビリーヴ Make Believe(仏2000ギニーG1、仏G1)、マクファンシー Mlkfancy(クリテリウムドサンクルー・仏G1)、ソフィアローヴ Sofia Rosa(ATCオーケス・豪G1)、マークマーク Marky Mark(マナワツサイヤーズプロデュースS・新G1)、ニードルアンドスレッド Needle And Thread(ロイヤルS・新G2)、エクスピット Expat(ATCミリーフォックスS・豪G2)、イミグランツソング(ニュージーランドトロフィーG2)、オールアットワンス(アイビスサマーダッシュG3 2回)、シリウスコルト(新潟大賞典G3)、エーティーマクフィ(本馬)、ヴァルツアーシャル(マーチS G3)、他に重賞勝ち馬多数

母テンシンランマン

北海道新ひだか町 有社台コーポレーション白老ファーム生産 中央21戦2勝、24年用途変更

スズカラマン(17 牝父クロフネUSA)不出走

ヒロシゲカナユリ(18 牝父ロードカナロア)不出走

エーティーマクフィ 本馬(19 牡父マクフィGB)中央30戦6勝(京阪杯G3、青

函S G1、大山崎S、藤森S G1 2着、天保山S G1 2着、コールドムーンS G1 2着、ペルセウスS G1 2着、コスモス賞 G1 2着、大和S G1 3着、りんくうS G1 3着、ギャラクシーS G1 3着)獲得総賞金204,377,000円

プライトルピナス(21 牝父サンダースノーレIRE)中央16戦2勝

ガイラルディア(22 牝父シニスター・ミニスターUSA)中央4戦0勝、地方4戦2勝

(24 牝父ベンバトルGB)

※20、23、25(不受胎)

祖母ハナランマン

北海道三石町 猪野牧場生産 中央3勝(石狩特別)、地方0勝。15年死亡

テンシンランマン(10 前出)

サダメリスペクト(12 牡父キンシャサノキセキAUS)中央2勝(中京日経賞、相馬特別)、地方6勝

曾祖母ファイトボロン

北海道三石町 猪野牧場生産 中央0勝。02年用途変更

ハナランマン(95 前出)

開設100周年のメモリアルとして実施された秋の京都開催を締めくくる短距離重賞・京阪杯は、フルゲートを埋めた18頭に実績馬と新興勢力が混ざり、上位拮抗の様相を呈したなか、前年のスプリンターズSの覇者ルガルが頭ひとつ抜けた支持を集めました。しかしその前に立ちはだかったのは7番人気のエーティーマクフィ。惑星候補の1頭と目されていたマクフィ産駒が鮮やかな強襲を決め、6歳の秋に嬉しい重賞初制覇を果たしました。

逃げたいタイプが揃い、注目された主導権争いは、ジャスパー・パークローネに軍配。しかし互角以上のダッシュで飛び出したカルチャーデイも譲らず、2頭

が鈍つたところへ外から伸びてきたエーティーマクフィが強襲。G1馬の底力を示し、2着は確保したルガルを大きくわしてゴールに飛び込んだ。

傷みが目立つてきた開催最終週の馬場に、速いラップ(前半600mの通過は32秒7)を刻んで飛ばした前の2頭は直線に向くと失速。楽な手応えを保ったまま、差を詰めてきたルガルが先頭に躍り出る。とはいえ59kgの別定重量も響いたか、ゴール前で少し脚勢が弱まってしまったが、末脚勝負に構えた。

6歳馬が新境地で重賞初制覇

が雁行してレースを引っ張る。最内枠から課題のスタートを決めたルガルは、気合をつけられて好位を確保。2馬身ほど離れた5番手にシリクロードSの覇者エイシンファンサー、その後にナムラクレアの半妹ナムラクララが続

き、エーティーマクフィの富田騎手